

名 称：平成29年度 第1回 神奈川県地方創生推進会議
開 催 日 時：平成29年10月31日（火曜日） 19時00分から21時00分まで
開 催 場 所：神奈川県庁本庁舎 3階 大会議場
出 席 者：◎牛山久仁彦、大塚万紀子、大橋由紀子、齊藤英和、関ふ佐子、立山昭憲、富田幸宏、富山英輔、平位武、平井竜一、室田昌子、山崎哲雄、ルース・マリー・ジャーマン、末永恵理、林田真秀〔計15名〕（順不同）（◎は座長）
次回開催予定日：未定
問 合 せ 先：政策局政策部総合政策課計画グループ 加藤宏翼
電 話 (045)210-3064（直通）
ファクシミリ (045)210-8819

経過：

1 開会

○ 中島総合政策課副課長：開会に先立ちまして、事務局から資料の確認をさせていただきます。お手元の次第をご覧ください。

（中島総合政策課副課長から配布資料の確認）

○ 中島総合政策課副課長：また、本日ご出席いただいております、富山委員から雑誌をご提供いただいております。富山委員からご紹介いただけますでしょうか。

○ 富山委員：先週の土曜日、10月28日に創刊となりました、「SHONAN TIME」という雑誌です。湘南のカルチャーとライフスタイルを扱う雑誌です。湘南発信という点を大切に、私を含め実際に湘南に暮らしている人たちで、湘南のリアルな空気感や暮らし方、新しい情報を伝えていければと考えています。10月の後は、平成30年1月、4月、7月、10月と3ヶ月に1度発行していきますので、是非よろしく願います。

○ 中島総合政策課副課長：ありがとうございます。それでは、政策部長の平井から挨拶をさせていただきます。

○ 平井政策部長：政策部長の平井でございます。本日は事務局の都合によりこのような時間となり、本来であれば、ワークライフバランスを重視しなければならない立場にありながら、遅い時間での開催となり、誠に恐縮でございます。委員の皆様方には、8月に2つの部会に分かれ、昨年度の総合戦略の取組みについてご議論いただきました。本日は一堂に会していただきましたので、すべての基本目標に対して、活発なご議論いただければ幸いです。よろしく願います。

○ 中島総合政策課副課長：ありがとうございます。それでは、これより牛山座長に議事進行をお願いいたします。

2 議題

○ 牛山座長：よろしく願います。本日も地方創生の推進について、活発なご意見をいただけますよう、よろしく願います。議事に入る前に、今年の4月に本推進会議の委員の改選を行い、改選後に初めてご出席いただいた委員のご紹介をさせていただきます。小田急電鉄株式会社 立山委員です。

○ **立山委員**：立山でございます。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

○ **牛山座長**：ありがとうございます。それでは、議事に入ります。神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価については、今年8月に皆様にご尽力いただき、基本目標1、3と2、4の2つに分かれ、評価部会を開催し、昨年度（2016年度）の取組みについて委員の皆様からさまざまなご意見をいただきました。今回はその部会での意見や、神奈川県議会からもさまざまなご意見をいただいているということですので、それらを踏まえて、更にご意見をいただき、本推進会議による二次評価を確定させていきたいと考えています。それでは、8月7日（月）に開催した評価部会において基本目標1、3についてご議論した結果を齊藤部会長（副座長）から説明をお願いいたします。

○ **齊藤部会長**：皆様こんばんは齊藤です。私の方で、基本目標1、3について、皆様とご議論させていただきました。当日、8月7日は台風が迫っていた日でした。それでも活発なご議論をいただき、ありがとうございました。資料3をご覧ください。基本目標1ではこちらの10の意見を頂戴し、右側の欄になりますが、二次評価をまとめました。施策全体では、「概ね順調に進んでいます」としましたが、これらの意見を踏まえ、

- ・生産年齢人口の就業率について、増加している年齢層や性別などを分析し、より一層効果的に取り組む必要があります。
- ・中小企業の事業継承について、問題が多様化しているため、実態をしっかりと分析し、取組みを進めていく必要があります。
- ・県産農林水産物のブランド化を図るため、地域資源の掘り起こしをさらに進める必要があります。
- ・農林水産業の担い手の確保について、引き続き取組みを進めていく必要があります。

といった意見を付けさせていただきました。続いて基本目標3では、たくさんの意見をいただきました。いただいた意見から、二次評価案として反映させていただき、右側ですが、全体では「概ね順調に進んでいます」としましたが、

- ・若い世代の経済的な基盤の安定に向けて、より一層取り組んでいく必要があります。
- ・女性が働きづらい原因を多角的に分析した上で、長時間労働の是正や職場環境の整備など多様な取組みを進めていく必要があります。
- ・潜在的待機児童にも配慮しながら保育所の整備を進めるとともに、保育の質の向上に取り組んでいく必要があります。
- ・子どもたちが、目標に向かって粘り強く取り組む姿勢や協調性、感情をコントロールする力などの「生きる力」を身につけられるような教育に一層取り組む必要があります。

といった意見を付けさせていただきました。また、6ページ目ですが共通部分の中で、

- ・評価を行う上で、KPIの達成率も重要だが、その内実としての質的満足度の向上を目指す必要がある。

といったご意見もいただきました。

○ **牛山座長**：ありがとうございます。それでは、8月2日（水）に開催しました評価部会で基本目標2、4について説明させていただきます。同じく資料3の基本目標2からご覧ください。こちらの基本目標の2は「神奈川への新しいひとの流れをつくる」というもので、ご意見を頂戴しました。ロボットについて肯定的なご意見をいただき、理解は深まりつつあるが、具体的にどうやって導入していくのか工夫する必要がある。といった意見ですとか、外国人の皆さんが作られた英語や中国語のロコミサイトなどに動画を配信するなど、より効果的な取組みを行う必要がある。それから、しばしば委員の皆様からもご意見いただいているマグカルについて、若者や高齢者など様々な年齢層が関心を持てるように、分野を広げるとともに、それぞれのターゲットを明確にした広報を行い県民周知に努める必要がある。といった意見や、県

西地域には伝統芸能が多くあるが、どこも後継者難であり、若い人に興味を持ってもらうことが必要だ。そういった意味で、生徒・学生が授業の一環として触れられるような取組みを行う必要がある。といったご意見をいただいたところです。右側をご覧ください。二次評価については、施策全体としては「概ね順調に進んでいます」としましたが、いただいたご意見を踏まえ、

- ・ロボット共生社会を実現するため、メディアの活用を含め普及啓発を一層進めるとともに、社会実装に向けた取組みを進めていく必要があります。
- ・外国人観光客誘致に向け、日本在住外国人からの発信や外国語サイトの活用など、より一層効果的に発信する必要があります。
- ・マグカルについて、様々な年齢層に関心を持ってもらうため、幅広い分野のコンテンツを扱うとともに、ターゲットを明確にした広報を行う必要があります。
- ・三浦半島の観光振興に向け、シーレーンの整備など海洋ツーリズムをさらに進めていく必要があります。

といった意見を付けさせていただきました。続いて基本目標4ですが、「活力と魅力あふれるまちづくりを進める」というもので、ご意見いただきました。5ページをご覧ください。バリアフリーの推進に向け、また、パラリンピックを契機としたアピールとして、完全バリアフリーのモデルルートを作るなどの取組みが必要である。という意見や、「日頃から健康に気をつけた規則正しい生活を心がけている人の割合」を増やすために、例えば自治体が毎朝体操を実施するなど、気軽に健康習慣が身につくような取組みを検討する必要がある。という意見や、未病状態を改善することがどういうことなのか分かれると、「日頃から健康に気をつけた規則正しい生活」をしないといけないということが分かるようになると思われるため、未病に関する県民理解をさらに進める必要がある。という意見や交通ネットワークの充実について、国や関係団体に対する要望はとても重要であり、今後の課題と対応方向にも要望活動について明記する必要がある。といったご意見をいただき、これらを踏まえまして右側の欄になりますが、二次評価については、施策全体としては「概ね順調に進んでいます」としましたが、いただいたご意見を踏まえ、

- ・県民が「未病改善」によって得られる効果を実感し、健康に対する関心を高められるよう、未病の考え方の一層の周知を図る必要があります。
- ・バリアフリー化を進めるに当たっては、高齢や障がいなど、人によって異なる移動のしやすさなどに配慮して進める必要があります。

といった意見を付けさせていただきました。また、6ページの共通部分ですが、複数委員から、評価のあり方についてご意見がありました。続きまして、事務局から説明をお願いいたします。

- **杉山総合政策課長**：総合政策課長の杉山でございます。本日はお忙しい中、お越しいただき誠にありがとうございます。9月に行われました県議会からいただいたご意見の説明、そして、8月の部会開催時から評価報告書の変更箇所の説明をさせていただきます。最初に資料4をご覧ください。こちらは8月の部会において頂戴した意見を反映させていただいた評価報告書を県議会に報告したところ様々なご意見をいただきましたので、ご報告をさせていただきます。番号3をご覧ください。「4つの基本目標という大枠で括ってしまうと、取組みの評価について県民との意識の乖離が出てくるので、ひとつひとつの取組みについて、きめ細かい評価をしていく必要がある。」という意見ですが、基本目標ごとに二次評価をさせていただいているため、少し大括りになってしまうのではないかとのご指摘と受け止めております。続いて、番号5です。「KPIが達成されているのに、基本目標の実現に至っていないのであれば、取組みなどを変える必要があるということなのではないか。」という意見ですが、KPIが例えば100%を超えているにも関わらず、全体として大きな基本目標が達成されていないのであれば、取組み自体も見直す必要があるのではないかとのご趣旨と受け止めております。続いて、番号6です。「地方創生の推進を図るため、評価にあたっては全国との比較や県内での比較も必要ではないか。」続いて、基本目標1について番号12です。「県内の半数以上の市町村ではすでに人口減少が始まっている中、地方創生をしっかりと推進し、

活性化していく必要がある。そのために、農林水産業の役割は大きいと考えられるので、これまで実施してきた事業の成果や課題をしっかりと検証しながら、より効果的な事業展開をしていただきたい。」基本目標2に該当するご意見はいただいておりません。基本目標3について、番号13番です。「数値目標に「25歳から44歳の女性の就業率」があげられているが、KPIにも同じ指標が使われており、KPIの達成が数値目標の達成につながるという体系になっていないのではないか。」KPIと数値目標が同一という点についてのご指摘と受け止めております。番号14です。「女性の労働力率」のM字カーブが全国最下位など、基本目標3に係るデータは全国との比較で低いにも関わらず、概ね順調と評価することは納得し難い。」続いて基本目標4について、番号15です。「既に2018年目標値を達成しているKPIについては、目標値の見直しが必要ではないか。」既に最終年度の目標値を達成しているKPIについては、目標値の見直しが必要ではないかというご指摘と受け止めています。番号16です。「市町村が主体となって行うものを県がKPIに設定するのは疑問である。」このように県議会から様々なご指摘をいただいております。趣旨なども踏まえながらご議論をお願いしたいと思います。続いて、8月の部会以降、大きく変更した箇所についてご説明いたします。資料1の9ページをご覧ください。地方創生推進会議の部会において、様々な総括的なご指摘や個別のご指摘などを取りまとめ、全体評価とさせていただきます。

(資料1の9ページ、神奈川県地方創生推進会議の評価を読み上げ)

続きまして、8月の部会において、いただいた意見の中で次回、資料をお示しすると回答したものがございます。資料3の8ページ、45番です。「三浦半島地域や県西地域の社会増減について、年齢層や性別等、内訳などの分析を行う必要がある。」とご意見いただいたところでございます。こちらに対応する資料として、参考資料2をご覧ください。県内の人口分析という資料を配布させていただきました。11ページ以降ですが、各地域の年齢別の状況について分析させていただいたので提供させていただきます。続きまして、46番ですが、「交付金事業について、交付金の具体的な用途を明らかにした上で、検討する必要がある。」というご意見をいただいたところでございます。参考資料3及び4をご覧ください。参考資料3につきましては、8月の部会に提出させていただき、ご評価いただいたものです。関連いたしまして、参考資料4として、それぞれの事業の実績額や内容についてまとめた資料でございます。

- **牛山座長**：ありがとうございます。県議会からも、「ひとつひとつの取組みについて、きめ細やかな評価が必要ではないか」など様々なご意見いただいたようです。8月の部会でも先ほどご説明させていただいたとおり、多くの意見をいただきましたが、本日はこれまでご意見をいただけていない部分などを中心に皆様からご意見を賜りたいと思います。それでは、末永委員お願いします。
- **末永委員**：参考資料4の7・8にある「未病いやしの里センター」について、率直に申し上げるとなぜそのようなものを作るのかなと、一般市民として感じます。ハコモノを作っても、そこにわざわざ行く人がいるわけがないと、素朴な感想を抱くのですが、少しご説明いただいてもよろしいでしょうか。
- **牛山座長**：ありがとうございました。それでは、事務局からご説明いただいてもよろしいでしょうか。
- **杉山総合政策課長**：県では、県西地域で人口の減少が進んでいることを受け、県西地域活性化プロジェクトという施策を推進しているところです。国の地方創生推進交付金なども活用しながら、地域の市町村の皆様と連携して取り組んでいるところです。併せて、県では「未病」の取組みを知事が中心となって進めておりますので、この戦略的なエリアとして、この地域を活性化していこうとしています。「未病いやしの里センター」は、未病を広めていくためのひとつの拠点であり、多くの方に訪れていただくことで未病について体感していただきたいという取組みとなっています。県西地域活性化においても、ひとつの拠点であると考えております。

- **大竹政策局長**：補足いたしますと、これがハコモノであるというご指摘をいただきましたが、行政がすべて作るということではなく、民間の事業者に「どの土地を使ってどのようなコンセプトでやるか」という企画を出していただきました。実際には、ブルックスホールディングという事業者が大井町に広大な施設を持っており、そこを使って未病を広めていくという趣旨に沿ってセンターを作っていく、民間企業主導のプロジェクトです。その中に、県も未病を普及するための施設を整備しようというものなので、行政が丸々お金を出して建物を作るというようなものではございません。
- **牛山座長**：ありがとうございます。末永委員、よろしいでしょうか。
- **末永委員**：はい。ありがとうございました。
- **牛山座長**：それでは、他の委員の方はいかがでしょうか。今日は富山委員から大変すばらしい雑誌をいただきました。湘南の魅力、神奈川魅力を発信していらっしゃるのですが、例えば基本目標2「神奈川への新しいひとの流れをつくる」の中に「神奈川ライフの展開」というものがありますが、このあたりの取組みについて、富山委員から何かご意見はいただけますでしょうか。
- **富山委員**：神奈川県はそれぞれの地域によって異なる特徴があると感じています。そのエリアごとの魅力がどこにあるのか、しっかり洗い出していくことがスタートラインだと自分では常に思っています。
- **牛山座長**：ありがとうございます。地域ごとの魅力を大切にしていくということですね。
- **富山委員**：そうですね。どの部分が県内の方や県外の方、一般の人にとって魅力に見えるのか、しっかりと理解することが大切なのではないかと思います。
- **牛山座長**：ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。では、室田委員お願いします。
- **室田委員**：最近出席できずにいましたので、改訂を経て、項目がずいぶん変わったなと思いました。追加してより充実させていくのは良いことだと思うのですが、そうした中で逆に気になったところもあります。例えば、「安全で安心なまちづくりの推進」の中で、消防団の団員数がKPIとなっています。県議会からの意見でも、消防団の指標がどうかというような意見があったようですが、例えば防災といったものが、これは非常に大きな問題ですが、入ってきているのかいないのか、検討した結果ここには入れていないということなのか、少し疑問です。また、持続可能なまちづくりということと、しごとを作るというようなことを併せて考えてみると、土地利用の問題もある。今、「空家等対策計画」を検討したり策定したりされているところだと思いますが、併せて、神奈川県の場合は空地などもたくさんあると思いますし、あるいは耕作放棄地とか、そういった手入れが行き届かない、管理が十分でない土地がかなりあります。それをうまく活用していくということも、非常に重要だと思います。空家に入っているかもしれませんが、ただ、空家とは違って森林地や農地であったような場合は、また別の農業など、市民との関係性、市民がどう管理していくかといったことも出てきますので、空家の中では捉えきれないような問題があるはずですので、そのあたりを検討されたのかされなかったのかというようなことが気になりました。
あと、少し気になる指標があります。達成率が150%や200%を超えているような、非常に高いものがありますが、これは順調に進んでいるということですのでよろしいのでしょうか。どういった議論がされて、どういった目標設定がされたのか、気になります。あまり達成率が高いと、それは目標自体が低かったのではないかと思いますので、目標の適切性が問われるのではないかと思います。
それから、2016年の数値だけでなく、2015年や2014年の数値についても、その変化がわかるような形で

示し方をしていただけると、今申し上げたような疑問も解決する部分があるかもしれないと思いました。

- **牛山座長**：ありがとうございます。ただいまご指摘いただいた点について、事務局お願いします。

- **杉山総合政策課長**：富山委員からご指摘の魅力の洗い出しについては同感でございます。私たちも魅力をもっと掘り下げて、そのうえで、例えば神奈川に移り住んでいただく方への発信や、今住んでいる方に神奈川に住み続けていただくためにも魅力を再度確認する必要あると思っています。室田委員からの安全安心に係る質問について、住み続けていただくためにはその根幹として住むまちの安全が大切となりますので、基本目標4のまちづくりの中で議論をした経緯があります。また、空家だけでなく空地や耕作放棄地をどうするのかについて、これから人口減少する中で空地等の問題も顕在化されてくることも想定しておりますので、今後関係部局と検討いたします。指標の達成率について、8月の評価部会や県議会でも議論いただいております。数値目標を設定した時の考え方としては、設定した年度の前の年度の実績値を基本にしなが、過去の推移等を見ながら伸び率等を踏まえて数値目標やK P Iを設定しました。従いまして適切に設定したものと考えておりますが、その後の取組みにより達成状況が非常に高くなったものについて今後どうするのか真剣に受け止めて、現計画だけでなく次期計画を策定する際にも推進会議の中で議論しながら、より適切な数値目標の設定のあり方を探っていきたいと考えております。実績の状況について、評価報告書の中のK P I一覧にこれまでの実績について掲載しております。

- **富山委員**：先ほどエリアごとの魅力を洗い出していくお話をしましたが、地域を区切るのではなく、エリアをまたいでいくことが大切と考えています。例えば、三浦半島が好きな人は湘南の海際地域も好きでしょうし、その目線で見ると三浦半島はとても魅力的でこれから可能性がある地域と感じます。地域を今あるものとは違う捉え方をしていくことができるとよいと考えています。

- **杉山総合政策課長**：行政を展開するにあたって地域政策圏（地域県政総合センター）単位での考え方をしておりますが、今回の総合戦略の中では神奈川の海を一体的に見ていく「かながわシープロジェクト」の取組みをしております。行政が決めた境界だけではないことを意識し、市町村とどのように連携するかを考えながら取り組んでいきたいと考えています。

- **牛山座長**：前回、三浦半島魅力最大化プロジェクトについて意見を頂いていますが、かながわシープロジェクトについては少ない状況でした。市町村ということで平井委員から、かながわシープロジェクトについてご意見ございますか。

- **平井委員**：地元の自治体として大いに期待しております。3年後にオリ・パラを控えていることもあって、やはり神奈川の魅力のトップに海を挙げて良いと考えています。民間企業とも連携し、一つ一つ実績も積み重なっていると思っております。ルートができればもう一步進めるかなと考えております。また、参考資料2「県内の人口分析」の出生のデータについて、資料7ページに出生動向分析があり、非常に厳しい状況がでています。2016年の合計特殊出生率が1.36ということで若干減少しています。出生数も7.1万人ということで、こちらも前年と比べると減少しています。これはおそらく、若年女性の人口が減少していることから、合計特殊出生率が上がっても、実際の出生数には、変化がなく横ばい若しくは減少という結果となっています。合計特殊出生率2.07を目指している中で、現状を踏まえ目標を達成するにはどうすべきかを意識せざるを得ないと思っています。今回の総合戦略全体としては、概ね順調と評価はできるが、人口減少問題を考えたときに、自然減が避けて通れない状況の中で、いかにして減少を緩やかにしていくのかだと思っています。神奈川県としては、社会増も大きな目標となっており、三浦半島や県西地域などの社会増減をゼロにしたいところではありますが、現状として、まだマイナス（社会減）の状況とな

っています。これについては、地域の魅力をいかに発信していくのが問題で、その意味では東京に対する転出は超過状態が続いているという結果からも、東京一極集中がなかなか是正されていない状況となっています。神奈川と東京の関係でも依然として課題は残っている状況なので、この戦略を進めながら、出生率・出生数と東京一極集中の是正を図ることを強く意識していかなければいけないと改めて感じました。

- **牛山座長**：人口減少の問題や結婚出産の部分について、まだ、ご意見をいただけていないので、その分野について、ご意見をいただきたいと思いますが、先の平井委員のご発言の中で、山崎委員のお名前も出ていましたので、まずは、山崎委員にご発言をお願いしますでしょうか。
- **山崎委員**：かながわシープロジェクトの推進については、2015年に「Feel Shonan」というコンセプトで、神奈川の海を内外に発信していく取組みが始まっています。その後、「Enjoy 海 Kanagawa」ということで、より具体的に神奈川の海を皆さんに利用してもらいながら広めていこうという取組みが始まっています。これには、俳優の加山雄三さんが名誉委員長に就任されており、色々なイベントにも出席していただけたところです。特に今年の事例でお話すると、県内に16あるマリナーが、これまでは個々に独立して事業を展開していましたが、今回の「Enjoy 海 Kanagawa」を通じて、マリナー業界の中でも一体的に同じテーマで、各マリナーがお客さんをお呼び込み、楽しませることができました。そのフィナーレとして「若大将カップ」というヨットレースを開催し、オリンピッククラスのディンギーから大型クルーザークラスまで、100艇近いヨットが集まり、相模湾でヨットレースを展開し、表彰式には加山雄三さんのコンサートも併せて開催するなど、非常に盛況なイベントとなりました。その面では、これまで、相模湾という共通点がありながらも事業者が繋がっていなかった部分が、一体化でき、より強力に誘客に向けた環境ができて上がったと思います。さらに、シーレーンとして今年からスタートした事業についても、相模湾にある海の駅を拠点としてつなげていくような環境も整いつつあり、オリンピックも意識しながら、神奈川の海が急速にうまくつながっていき、観光客等の誘客に向けた動きが進んでいるように感じています。
- **牛山座長**：ありがとうございます。では、先ほど少しお話をしたように、妊娠・出産・子育ての希望をかなえる取組みについて、齊藤部会長からご意見を頂けますでしょうか。
- **齊藤部会長**：基本目標3に関しては、なかなかよい施策がないという現状があります。参考資料等も拝見していると、例えば交付金についても、基本目標3に関する取組みが少なく、関連事業としてもシルバー層に向けた事業となっていて、若い層に向けた取組みがないと感じました。ただし、産業の活性化等により、特に若い男性の正規の雇用や就業が増えれば、それが結婚や出産にもつながっていくので、その部分がまずは必要なかも知れませんが、それ以外の部分も少し考えていければとも思います。特に結婚に関していえば、昔は会社がお見合いの場でもあり、以前は職場内の結婚も非常に多かったが、現在ではそれが非常に少なくなっています。会社にその役割がなくなり、そのために、出会いをほかの場所に求めることになっています。とはいえ、会社の姿勢として、会社のトップが、基本目標3を意識した取組みを進めていくことも大切だと思います。そこを意識した人員配置として、男女を組み合わせさせた仕事の協働や作業をするなど、子育てに関していえば、女性ばかりのワーク・ライフ・バランスだけではなく、男性がいかに育児に関わるかも非常に大きな問題です。会社のトップが、トップダウンで、男性の働き方を変えていき、家庭での仕事も十分に果たすようにしていけば、子どもの数も増えていくという統計的な結果も出ているので、会社の中での意識改革も大事だと思っています。特に、日本のものの考え方は、下から意見を上げて言っても、なかなか変わらないが、トップダウンで意識を変えていくと早く物事が進んでいく。そのような会社も最近は結構出てきています。生活のかなりの時間を会社で過ごすことになるので、会社が意識改革をするような施策を打ち出していくと良いと思います。そこでの環境を変えるということがすごく大切なことであり、それを推進するような何らかの施策が基本目標3に必要ではないかと思えます。

○ **杉山総合政策課長**：ご意見いろいろとありがとうございます。シープロジェクトにつきましては、山崎委員からご指摘いただきましたが、今回、連携についてなかなか行政の中で上手くいっていかなかったような横串を刺すようなことが、様々な取組みで出来つつあり、これは他の事業にも関わることであると思っております。また、平井委員と齊藤委員から様々なご指摘をいただきました。部会の際に平井委員から、単純に数字だけでなくもっと質的な部分も向上すべきではないか、そういったところにももっと目を向けるべきではないのか、というようなご指摘をいただいたと記憶しているところですが、やはり人口減少にどう取り組んでいくのかということは、本当に地方創生の一番基本的な概念の部分です。この中で、数値目標・KPIが達成されているにも関わらず、結果として合計特殊出生率が上がっていないということであるとするならば、ポリシーミックスが上手くいっているのかも含めて、きちんとした議論をしながら、本当に我々が打っている施策が効いているのか、これから検証していく必要があると思います。また、市町村の皆様方もいっしょに議論し、進めて行きたいと思っております。東京への転出が相変わらず続いている点の裏返しとして、先ほど申し上げたことにも関わりますが、やはり神奈川の魅力、神奈川に住み続けたい、神奈川に行きたい、というような感覚を持っていただけるような施策であったり、あるいは社会作りであったりを考えていく必要があると受け止めているところでございます。齊藤委員からもお話がありました、なかなか良い施策がないのではないかとこの部分については、これから我々も検証しながら進めて行かなければならないと思っております。交付金の事業について言えば、ご指摘のとおり、若い方に対しての施策が少し少な目かということと、併せて実は国からも地域に対する少子化対策交付金などが別途ありますので、そういったものも活用しているのですが、全体として見ると若い方、子育ての関係などへの取組みが交付金の中においてもまだまだ十分ではないということを振り返りながら、今後どういったものが交付金事業として出せるのか、あるいは交付金でなくてもどういったものを子育ての環境をきちんと整えるためにできるのか、検証して取り組んでいく必要があると思っております。また、健康にしても子育てにしても、民間の会社の方も含めて、様々な職場における意識改革ということをお話いただいたと思っております。これは今、社会的にも働き方改革が言われております。そうした中において、本当の意味での働き方改革が行われて、本当の意味でのワーク・ライフ・バランスが達成をされ、そうした中において、女性も男性も共に生きやすい社会を作っていく。それが結果として魅力のある社会に繋がっていくと思っております。どうしても、男性の部分についての視点が若干弱い部分もあることを意識させていただきながら、総合戦略の中で基本目標3はかなり大事な部分だと思っておりますので、我々もしっかり検証しながら少子化対策等に取り組んでまいりたいと考えています。

○ **牛山座長**：ありがとうございます。今のご発言に関連して、横串を刺すというお話がございまして、これは非常に難しいことですが、例えば基本目標3の二次評価(案)のポツの2つ目で「女性が働きづらい原因を…」ということで、長時間労働の是正、職場環境の整備、これは当然進めて行かなければいけないことですが、基本目標3が「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」となっていて、一方で基本目標1では「県内に仕事をつくり、安心して働けるようにする」とあり、この言葉だけを見ると、こちらの方が場所的に横串を刺すという部分に当たるような感じがして、適しているような言い回しになっていて、例えば女性が働くことと結婚・出産を両立させることは難しいような原因を分析するとか、場合によっては両方に再掲という形で載せるということもあるかと思っております。今のお話を伺って、もう少し工夫したほうが分かりやすいかなと思われましたのでご検討いただければと思います。

○ **大塚委員**：基本目標3が今テーマになっていましたので、そちらに関連して私からいくつかコメントさせていただければと思います。二次評価の案を今日頂戴しており、資料でもご説明いただいておりますが、少々物足りなさを感じているのが率直なところでして、もう少し踏み込みたいと思います。今話題となっています基本目標3の「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」、資料1の37ページにございますが、書いてあることが若干抽象的と感じておまして、できれば二次評価の段階からもう一歩具体的

に踏み込みたい、と思います。例えば齊藤委員がおっしゃっていたような企業の巻き込みというところに関しては、正直申し上げてそのことを書いてあるのは2つ目の視点なのかしら、という程度になってしまっていますので、もう少し本気で県として議論を巻き込んでいくぞというふうなことが分かるような形で、私が委員をさせていただいている中で、こちらは強く申し上げておきたいと思っております。企業の巻き込みでいくつかアイデアがあるのですが、1つ目は働き方の特区です。これだけ特区制度がブームになっているのですから今後そういったものが出てくる可能性がありますし、神奈川県という大きな県が取りに行くぞという気概をもって、働き方に関する何かユニークなことをしていくのだという姿勢を見せていくことも大事なのではないかと思えます。東京への転出人数が多いということですので、隣接している東京都に対して神奈川県の魅力は何かと考えたときに、自然環境だけではなくて、働き方ということでも多くの人を引きつけられるのではないかと思えます。自分ももともと神奈川県民ですが、東京都の方が働きやすい暮らしやすいです。正直に申し上げて、育児に関する様々な補助も東京都の方が大きいです。子育て世代はやはり住むエリアをそういうことで選んでしまうので、ならば働き方では神奈川だよねというように、東京都と違うことをやっていかなくてははいけないと思えます。まさに座長がおっしゃられた基本目標1とも非常に密接に関連している分野ですので、若い世代の結婚・出産というライフイベントだけではなくて、神奈川県が成長していく1つの大きな柱だということが分かるような表現が加わったらいいと思えます。もう1つのアイデアはテレワークです。資料1の46ページに企業へのテレワークの導入推進と記載されているのですが、テレワークをもっとうまく活用すると、神奈川の自然を愛しながら東京の仕事ができると思っています。私の子供が現在5歳でして、保育園にお迎えに行った後に、夫へ子どもを託して本日来たのですが、そういった保育園事情というところも考えてまいりますと、東京はもしかしたら神奈川に劣ってしまうかなというところもありまして、様々なIT機器を使えば働き方を革新するということができるのではないかと思えます。あと、本日これだけは申し上げたいと思っていたことがございまして、それはこの会議の開催時間についてでございます。19時から21時というのは子育て中の者にとっては本当につらい時間帯でして、事務局の方に、出ないでいいということなのでしょうかと申し上げてしまって大変申し訳なかったのですが、議事録にも残りますし、改めてこの場で申し上げさせていただきます。重要な意思決定をするというような会議は、やはり日中の時間に開催していただきたいですし、もしそれが難しいようであれば、テレビ会議を使う、テレワークを使っていくというように思い切った決断を県庁からしていただく必要があるかと思えます。聞くところによりますと、こういった取組みを進めるにあたっては様々な問題があるということですが、そこを突破しなければ、企業に対してテレワークを推進することは毛頭できないと思えますので、まずは隗より始めよということで、テレワークを進めていただく、テレビ会議を活用して委員の皆様から時間的な制約を乗り越えて貴重な意見を賜れるというような環境づくりに行政から取り組んでいただきたいと思えます。次年度以降、できればこの指標の中に、行政組織での働き方改革が神奈川県内でどの程度進んでいるかといったものが分かるものを加えていただきたいと思えますし、そのインパクトを全国に発信していく中で住民の皆様にも神奈川県は本気なのだということを伝えていただきたいと思えます。是非ともご検討いただけたらと思っております。以上です。

- **牛山座長**：ありがとうございました。開催時間については本当に申し訳ないと思っております。先ほど事務局の方からも再三お詫びの言葉がございましたが、大塚委員がおっしゃっておられることは本当に我々も考えていかなくてははいけないと思っておりますので、よろしくお願ひします。それから先ほど三浦半島のお話ですとか、シープロジェクトのお話がございましたが、人口減少といったときにもう1つ焦点となっている県西地域活性化プロジェクトや、あるいは関連して、国内観光客の誘致促進、地域のマグネットによる魅力づくりなどに関して、湯河原町長がせっかくご出席されているので、何かご意見がございましたらお願ひします。もちろんその他のことに関してでも結構です。
- **富田委員**：座長のリクエストにお応えできるかどうか、取り留めのない話となるかもしれませんが。先ほど平井委員からもありましたように、東京の人口が増えてというお話は本当に長い間あることで、今でも

横浜市の昼夜間人口はおそらく夜の方が多くのではないのでしょうか。横浜市の多くの人は東京へ働きに出て、伊豆のあたりから平塚や藤沢くらまでにお住いの人は横浜へ働きに出るという流れはずっと以前から変わっていないというのが現状だと思います。そんな中で地方創生の仕組みが始まったときに、時の大臣が頑張っている地方を応援するのだと言っておりましたが、首長の立場からすると、頑張っていない市町村を教えてくれと思わず言いたくなるような、そんな印象を持ったことを覚えています。ただ人口減少や地方創生に取り組むことは、必然になっていた状況が浮き彫りになってきて、官民を問わず共通認識をもって取り組まなければいけないと思います。今回の評価については、私はこれでいいのではないかと思っ
ていまして、むしろ1年くらい前に、評価をする際にはお手盛りにならないで欲しいということを申し上げたつもりです。つまり、できなかったものはできなかったと記載することが、最終的に評価の信用力も高まるのではないかということです。ただ、皆様の知恵や経験を動員して問題提起をしても、計画を実行していくと、効果が毎年常に出てくるようなものばかりでもないものです。シープロジェクトの関係についても、1990年代初めの時期にサーフ'90といった話があって、でもいつの間にか立ち消えてしまっていたという状況がありました。また、話は変わりますが、先日、徳島県の神山町という所へ行ってきました大変刺激を受けたわけですが、湯河原に置き換えてみれば、週末サーフィンをやりながら仕事をするというのはいかがですか。といったPRでありました。最初に神山町へサテライトオフィスをかまえた企業はデータを蓄積する関連の企業で、データを分散させる場所を探していたところ、最終的に神山町へたどり着いたというお話でした。過疎地域自立促進特別措置法という法律を使うと特別償却などの手法で企業にも利点があるのですが、神山町長に、そういう制度を利用してその企業は来たのですかとお尋ねしたら、そういうわけではないということでした。その制度ができる前にその企業は来たというのです。ではなぜ神山町が選ばれたのかと言えば、最終的にはその地域の地盤だったとおっしゃられるのです。その地盤が一番地震に強いだろうということで選んだということでした。これからいろいろなかたちで問題が提起されていくなかで、それぞれの企業も県民も、自分たちのこととしてどう受け止めるのかということが大切だと思います。県がいろいろな問題をきちんと提起したという中間的な報告書になるのではないかと思います。

- **牛山座長**：ありがとうございます。他の委員の皆さまはいかがでしょう。関委員からお願いします。
- **関委員**：一点目は資料1の9ページ、評価についてです。これは全体についての評価をまとめたものであって重要なページだと思います。一つ目と二つ目の丸が報告書全体の説明となっているのだと思うのですが、ここが抽象的すぎて、ただ単に、概ね順調がこうなっているという書き方なので、ここを読んだだけでは何が順調なのか、何が良くなかったのかというのが見えにくいと思います。ここだけ読む人もいるかもしれませんが、もう少し具体的な中身についてここに書いた方が報告書の全体像がわかるのではないかと思います。二点目は、この評価にも書いてあるとおり、KPIの見直しを2017年にする必要性などは私自身もそう思っています。そのうえで、例えば議会からの意見のなかで「改善すべき点など厳しい意見があるにもかかわらず、二次評価が「概ね順調に進んでいます」となるのは、評価が甘いのではないか」という指摘が出ていますが、もしかしたら報告書の書き方がわかりにくくのではないかと思います。我々が評価した際は、一次評価や具体的な数値をみて、全体として「概ね順調に進んでいます」と評価をしたうえで、しかしこの点は課題であるという、課題を述べるのが中心だったと思います。その結果、課題が二次評価としてたくさん記載されているわけです。評価している点については何も記載がなく、課題だけが記載されているので、二次評価がされていないと読めるかもしれません。概ね順調に進んでいる理由を記載するか、順調に進んでいるけれどもこういった課題があるというように記載をしないと、今の記載内容だと順調に進んでいる理由になっていないので、そのあたりが分かりにくいかなと思いました。
- **牛山座長**：ありがとうございます。書き方に工夫が必要だということかと思いますが。では平位委員お願いします。

- **平位委員**：今のご意見に関連があるかもしれませんが、議会で出された意見のなかで、「多くのKPIの達成率を見ると、目標値を達成しやすいと思われる項目や実現可能な値に抑えて設定しているのではないか」とあります。我々は過程を知っていますが、この結果だけをみると「順調に進んでいます」や「概ね順調に進んでいます」がほとんどで、あえてつくる必要はありませんが、上手くいっていない項目がないと、報告書として上手くいっていることを強調しているようにみえるというのもわかる気がします。もう1点、結婚などの関連で企業がどう変わってくるかという点です。私が入社した昭和50年代頃は会社人間ばかりでしたが、その後、だんだん皆で旅行に行ったり宴会をしたりということが無くなり、寮も社宅も無くなり、行事も無くなってきていました。しかし、ここ2・3年どこの企業もそうなのかは分かりませんが、私どもの会社は、運動会を去年から始めました。以前は、寮もまっぴら御免だというのが、皆で一緒に共同生活をするのは良いことだろうと考えたり、また、会社から離れるのが主流だったのが、会社に帰属することは悪いことではないという風潮があると思います。
- **牛山座長**：ありがとうございます。まだご発言されていない委員の方いかがでしょうか。では立山委員をお願いします。
- **立山委員**：小田急電鉄に勤務しております。川崎、県央、県西地区を通らせていただいて、藤沢の方にも線路が伸びており、特に神奈川県を中心に生業をさせていただいております。私は交通企画、鉄道の全体を統括する部署におり、私どもの輸送の実態をある程度俯瞰する立場になります。新宿を発着しておりますが、輸送人員では、実は県内移動が半分以上となっております。神奈川県は、神奈川県は、経済的にはかなり活気がある地域と改めて認識してございます。本題に入る前の前置きが長いのですが、都心の方で複々線という、線路を2本から4本に増やす事業をしております。来春にこれが完成いたします。鉄道としては部分的な開業になりますが、全線に渡る大規模なダイヤ改正をこれから行います。実は今日、県央、県西地域の各自治体に内容をご説明して参りました。明日の午前中にプレス発表をさせていただきます。そういった意味で皆さんのご議論を聞かせていただきましたが、全体でいうと、神奈川県はかなりしっかりしている自治体と認識しております。対東京という意味では、色々と政策を打たれて、地域が活性化されて、私どもの業績にも繋がって参りますので、まったくもって賛同してご協力させていただこうと思っております。敢えて気づいた点としまして、沿線にお住まいの方々が増えていくこと、地域が活性化することが大事だと思っております。参考にさせていただきたいと思っておりますのは、大学が沿線にありますと、その学校に入られた方は一定の割合でその地域に残る傾向にあるように認識してございます。昨今の少子高齢化がありますが、大学の都心回帰によって、私どもも通学の実績としてじわじわと影響が出てきております。既存の学校が今のところに残ってもらう視点での何らかの施策があってもいいのではないかと思います。それから、観光の部分で言いますと、箱根の部分はいつも大変お世話になっております。県央には、神奈川県第二の観光地として大山を指定していただいております。ご存知のとおり、丹沢と大山地域は、行政単位ですと、厚木、伊勢原、秦野に跨っております。各自治体はそれぞれの観光協会で頑張っておりますが、やはり観光というのは大山で1つですので、行政を越えたプロモーションなどができるといいなと思っております。私どもや神奈中さんなどをご協力させていただいておりますが、立ち位置として、行政を跨ぐ役割として、神奈川県が束ねていただくのも役割なのかと思っておりますので、参考にさせていただければと思います。以上でございます。
- **牛山座長**：ありがとうございます。では、林田委員お願いいたします。
- **林田委員**：林田と申します。3つ提案があります。まず、今回の全体のビジョンのゴール、KGIを決めてはいかがでしょうか？1つ目は自然増に対するのゴールは合計特殊出生率かと思いますが、それをいつまでに横ばいにして、その後いつまでに上向かせるかというゴールをKGIとして作ることが大事かと

思います。その上で、今回の総合戦略の対象の2015年から19年の5年間のK P Iの2次評価においても、K G Iである合計特殊出生率の向上にどう結びついているかどうか、は1年、2年で結果が出なくても、3年や5年という中長期的なマル、サンカクの評価として行う必要があると思います。次は、社会増のK G Iも決める必要があると思われます。神奈川県全体での人口の増加の理由は、川崎・横浜、県央、湘南の地域が主に増加していることですが、県西や三浦半島の地域は減っています。この乖離は年々大きくなる傾向があるため、神奈川県全体では、どこをゴールにするか、を決める必要があります。例えば県西と三浦半島の社会増を達成する、と絞って県のK G Iを設定しても良いと思います。その社会増のK G IにK P Iの達成が繋がっているかどうか、がK P Iの2次評価としても大事ではないでしょうか。最後は、報告書案の56ページになります。横串の話して県と各市町村との連携を推進するとありました。先ほどの横浜、川崎、県央の人口増の理由は、主に大学や就職での若い世代の増加ですが、例えば、その世代を県西や三浦へ、となるとただの人の取り合いになってしまい市町村では連携がしにくいと思います。むしろ人はライフサイクルに従って移動する、と考えてそれを逆手にとって推進していくのはいかがでしょうか。20代は大学、就職に向く地域があり、30代以上では子育てが向いている地域、40代以上では介護がしやすい地域、50代以上で住みやすい地域などの特色を市町村で出して、県の市町村間の移動を促進させるやり方を県が主導するのもありなのかなと思います。横浜、川崎、相模原などの市や区は、県西や三浦半島の地域に人が移動して欲しくないかもしれませんが、神奈川県の中でそのような協力・連携をしないと、東京というより強いマグネットに吸い寄せられてしまうだけなので、県内の地域の磁力を年代などを考慮して分散させて高めていく戦略があってもいいのではと思います。

- **牛山座長**：ありがとうございます。それでは、平井委員お願いいたします。
- **平井委員**：今のご意見に非常に繋がる話しですけれども、県議会からの指摘に見られるように、概ね順調に行っているという評価にどうしてもなりがちです。戦略全体の評価の構造として、今まきにご指摘がありました、評価報告書の2ページ、3ページですが、基本目標に対して概ね順調になっているという評価になっています。それぞれに目標を設定し努力して、目標をクリアしている項目が多くなっていて、はたから見ると甘めの評価になっていると思います。ところが、「克服すべき2つの課題」と「3つのビジョン」といった、全体を統括しているより上位の目標において言えば、まだまだ乖離があるという状況だと思います。先程はこういった評価はもう少し時間が経ったらといったご意見もありましたが、資料としては十分にあり、分析もされているので、例えば毎年評価をする事も検討してはいかがでしょうか。例えば2016年は基本目標が概ね順調でも合計特殊出生率が下がったということを明記し、どういった課題があるのか問題意識を評価の前段として記述することで、基本目標ごとでは概ね順調であっても、まだまだ克服すべき「2つの課題」や「3つのビジョン」に影響が出るまでにはいかない。なので、更なる改善や追加の施策が必要であると表記することにより、甘いのではないかとといった指摘は出ないと思います。神奈川県全体としては社会増ですが、東京への転出超過は未だに大きな課題であり、先を見据えた場合に課題があると思います。未病の取組みについても、健康寿命のデータが出ていますが、経年でどう変化するかを注意する必要があります。神奈川県も健康長寿日本一を目指すという大きな目標を掲げていて、評価すると共にどういった課題があるということを前段に記述すれば危機感を共有できるので、指摘等も無くなるのではないかと感じました。
- **ルース委員**：今回も参加させていただき、ありがとうございます。原点に戻るような話をして恐縮ですが、最終的な出口を想像しないといけないのではないかと思います。外部から見たこの5年間の成果はとても大事だと思います。神奈川県に住みたい、行ってみたいなどの価値感を持ってもらうことが大事だと思います。東京の方がサポートなど充実していて、東京への転出超過は悔しいと思います。神奈川県だから、そこへ住みたい、そこで子育てしたい、と思ってもらうことが大事だと思います。基本目標3の46ページ、働き方改革の部分です。K P Iの25～44歳の女性の就業率が上がっているということで、評価され

ている点が、大変恐縮ですが、男性的な価値感を覚えます。その下のK P Iの事業所における男性の育児休業取得率は5.8%とあり、これでは神奈川県に住んだら、女性として働かないといけないし、子育てもしないといけないと、より忙しくなるという印象を受けます。私達が世の中に発信していく価値感として良いのかと疑問を持ちました。このあたりが改善すればするほど、神奈川県の魅力が増えると思います。観光分野では、どんどん人が来てくれて、一時的なビジターがこれからも増えていき、経済にいい貢献があると思います。反面で、定住している方々が充実していることが重要だと思います。私も鎌倉に住んでいますし、最高だと思っています。神奈川県に定住・移住してくれる方を指すのであれば、これらの女性・男性の子育てや働き方のK P Iについても考える必要があります。1つ提案ですが、すぐには出来なかもしれませんが、テレワークなど、働き方改革が進み男女の働く時間の平均が全国より少ないということが言えれば、子どもと過ごす時間があるなど思ってもらえると思います。

○ **牛山座長**：ありがとうございます。大橋委員お願いします。

○ **大橋委員**：前回欠席してしまい、今日は皆様のご意見を伺っておりました。基本目標3については、すぐには変わるものではないと思います。概ね順調に進んでいますという評価はよろしいと思いますが、まだまだ課題が多いということについて、皆様も認識していらっしゃるのので、今後ともお力を入れていただきたいと思います。今、ジャーマン委員からもありましたが、若年女性が、働くことでも活躍して、少子化対策でも期待されているところです。神奈川県は通勤時間が全国で1番長いということを踏まえて、働き方の改革とともに改善されていくことが必要だと思います。また、最初に出ていましたが、基本目標3、43ページのK P I、保育所の待機児童数の達成率402.4%ですが、表現として納得のいくものではないように思いますので、ご検討いただければと思います。

○ **牛山座長**：ありがとうございます。まだまだご意見あるかと思いますが、予定していた時間もごさいますので、事務局からお願いします。

○ **杉山総合政策課長**：ありがとうございます。様々なご意見ありがとうございました。皆様からいただいたご意見を踏まえながら考えてまいりたいと思います。行政として、評価を行っていく際にどこまで振り返りをし、事実に対し向き合えるかが大切だご指摘をいただいたと思います。当初目標にしたこと、書いてあることに対し、実施しました。といった評価になりがちでありましたが、客観的に見直し、事業と事業の間に落ちてしまっているような課題の抽出力についても、考えながら取り組む必要があると思います。出来ていること、出来ていないことを明確にし、出来ていることは更に推進し、出来ていないことには振り返りをし、立ち向かっていく必要があると思います。評価報告書への記載について、書き方や表現、県の受け止め方についても、座長と相談させていただき、抽象的にならず県民の皆様に分かりやすいよう工夫してまいります。この評価報告書を作ること自体、県が取り組んでいる地方創生を県民の皆様にご理解いただくという目的ですので、伝わるように考えてまいります。また、多くの委員からいただきました働き方改革について、全くその通りでございますので、県でも働き方改革を推進しております。企業の皆様とも連携していきながら、また、市町村の皆様とも広域自治体として、県は何が出来るのか、市町村の皆様が何を望んでいるのか、しっかりとご意見を伺った上で連携してまいりたいと思います。加えて民間あるいはお話もありました大学についても、同様に連携をしてまいりたいと思います。今後、本日のご議論を整理し、評価報告書を仕上げたいと思います。最後になりますが、こういった時間での会議開催について、大変申し訳なく、ご迷惑お掛けいたしました。今後については、極力、日中での開催を心がけてまいります。合わせて、TV会議などについて、セキュリティなどの課題がございますので、一朝一夕には困難であります。そういった点も視野に入れ、技術革新の中において、人口減少社会における方法の1つであると思いますので、本日いただいた意見など参考にしながら取り組んでまいりたいと思います。

- **牛山座長**：ありがとうございます。根本的な問題から、各プロジェクトの内容について、また評価の仕方など県民に分かりやすい表現・書き方などご意見いただきました。これらご意見を踏まえまして、見直しを行ってまいります。基本目標ごとの二次評価について、本日も皆様からご意見いただきましたが、一段、今年度の評価として、私としては、概ね順調という評価でありつつも、こういった課題があるという表現が現時点では適切かと思えます。先程、わざわざ評価を低くするものでもないといったご意見もいただきましたので、二次評価の文章について本日のご意見などを踏まえ、加除修正させていただこうと思いますが、ご承諾いただけますでしょうか。

<委員：意義なし>

- **牛山座長**：ありがとうございます。それでは、二次評価案については、本日重要なお意見いただきましたので、県民の皆様、また県議会からも指摘無いよう、、、。
- **末永委員**：一点だけ、よろしいでしょうか。細かくて申し訳ございません。待機児童の数ですが、497人という今年度の実績で、達成率が402.4%ということですが、来年度から待機児童の定義が変わり、従来は横浜や川崎に多く保留児童と呼び変えられていたものが、待機児童に含まれるようになります。それにより、横浜・川崎だけで4000人以上いた保留児童が待機児童に含まれることにより、大幅に達成状況が変わってくると思えます。目標設定の大幅な見直しについても留保を付けた上で概ね順調とすることはいかがでしょうか。
- **牛山座長**：それは、今年度の評価に留保を付けるということでしょうか。
- **末永委員**：そうです。目標設定に疑問がある部分がありますので。
- **杉山総合政策課長**：ご指摘いただきました点ですが、例えば、評価報告書の全体評価の部分で触れさせていただくことが可能だと思いますがいかがでしょうか。
- **牛山座長**：ご指摘はご尤もであると思えますので、どのような書き方にするかは検討させていただいて、検討させていただいて、ご意見反映させていただけるよう努めます。その他ご意見ありますでしょうか。そうしましたら、事務局と調整させていただき、具体的な文言を検討し、文章を作成させていただきたいと思えます。

<委員：意義なし>

- **牛山座長**：ありがとうございました。それでは、最終的な案文を作成させていただきます。それでは事務局から連絡などありますでしょうか。
- **杉山総合政策課長**：本日は大変活発なご議論いただき、誠にありがとうございました。8月の部会や本日の議論の中で目標値の見直しや取組み内容の充実について、ご意見いただいたと受け止めております。今後こういった形でお示しさせていただけるか、県の事業部局とも相談させていただきながら、検討してまいりたいと思えます。その結果につきましては、1月頃にお知らせさせていただき、皆様にご議論いただければと考えております。
- **大竹政策局長**：政策局長の大竹でございます。重ね重ねになりますが、本日は遅い時間にお集まりいただき、本当に活発なご議論いただきましてありがとうございます。総合戦略は2年を終え、我々が行っ

ている施策の1つ1つが基本目標、ゴールに向かっているのか、効果的であるのかという点を立ち止まって考えていかなければならないと思っております。また、KPIについても本当に適切なかどうか、徹底的に考えていかなければならないと思います。既に、全庁的にも施策の見直し、KPIのあり方についても改め追加・見直しについても検討するよう指示を出しているところでございます。こちらについては、柔軟に対応していきたいと考えております。本日は、県議会からもご意見いただきました、評価の結果を県民の方々にどうお伝えしていくか、順調、概ね順調、やや遅れている、遅れていると、当時、県民の方々に分かりやすく伝えるために、4段階の評価を設定したところですが、逆に分かりにくいものとなってしまっています。正確に言えば、4つの基本目標について、設定されたKPIの達成状況などを踏まえると、施策全体としては概ね順調に進捗しているが、こういった課題があります。こういったところが県民の方々に伝わらなければならないと思いますので、肌感覚を意識して取り組んでまいります。最後になりますが、この総合戦略は国が主導して計画を作成し、交付金についても同様であります。こういった制度を自分達のものにしていかなければならないと感じましたので、皆様のお知恵もいただきながら、一緒に進めてまいりたいと思っておりますので、何卒よろしく願いいたします。

3 閉会

- **牛山座長**：ありがとうございました。本当に本日は活発なご議論をいただき、また遅い時間にお集まりいただきまして、ありがとうございます。以上で平成29年度 第1回 神奈川県地方創生推進会議を閉会いたします。